



## 入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成20年度新入生の皆さん、厳しい受験競争を勝ち抜いて、新潟大学歯学部に入學おめでとうございます。昭和40（1965）年に設立された新潟大学歯学部は、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得可能な口腔生命福祉学科を有する国立大学法人歯学部であります。日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉を学び、我々教員ともに、新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

新潟大学歯学部では、包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。この教育目標達成するために、さまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。特に、新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを歯学教育の改善の柱としています。君たちが大学生活で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という観点が必要です。生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。試験の前に丸暗記した事柄は試験が終われば忘却の彼方であったということは皆さん経験していることでしょう。小・中・高校では教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨むという受動的な学習形態でした。大学、特に医療を目指すものにとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学習形態（問題発見・解決型学習）が望まれます。これは赤ちゃんがお母さんから食べ物をもろう、いわゆる spoon feeding から、自ら食材を

見つけ、調理していく self-cooking に転換していかなければなりません。このような学習形態の転換のために、本学部では早くから Problem-based learning（PBL）という学習方法を導入しています。このPBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。教育効果をあげるために、新潟大学歯学部では全学的にも高い評価を受けている詳細なシラバス（Syllabus）を整備しており、IT機器を、教材を整備しています。これらを積極的に活用するようにしてください。本学部の教育改善については高い評価を受け、さらなる教育改善を進めていますが、まだまだ不十分です。また、個別空調設備、視聴覚設備の設置に代表される教育環境の充実を我々教員の視線で行っていますが、やはりこのような環境整備も学生諸君の要望、改善策が新潟大学歯学部をさらによりよい学部としていく基盤となります。学生諸君の立場からみたハード面、ソフト面の改善策を我々教員に積極的に提言してください。そして、さらなる教育改善をともに進めていきましょう。

教育の話ばかり致しましたが、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、歯科医療人である前に、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した大学生活を過ごし、卒業時には、平成20年度入学生全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合いたいものです。



## 新潟大学歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 齊 藤 力

難関を突破され歯学部歯学科ならびに口腔生命福祉学科に入学された新入生の諸君、入学おめでとうございます。未来の歯科医学、歯科医療を担うべく全国から集まってきた諸君を心より歓迎いたします。

新潟大学のキャンパスがある新潟市は、平成19年4月1日より日本海側初の政令市となりました。新潟市は日本海、信濃川に囲まれた美しい水の都であり、美味しいお米や日本海の海の幸など食の宝庫であります。新潟市長の篠田 昭氏によれば、新潟市を「田園型政令市」と表現するのだそうです。しかしインターネット等の情報網の発達により日本の何処にいても情報量の地域格差はもはや無いに等しく、まさに学ぶには申し分のない環境と思います。

諸君の大多数は歯科医師、歯科衛生士と社会福祉士などのプロフェッショナルになることを希望し、6年後あるいは4年後にそれぞれのライセンスを得ることを目標としていることと思います。歯学部は学部の特性上、職業訓練所的なイメージが強いことは事実ですが、医学や歯学という生命科学を探究する場でもあります。近年の医学、歯学の発達は急速で、諸君に求められる情報量は増大の一途をたどっており、とても暗記することだけでは対応しきれません。科学的発想を身につけることこそが最も大事であると思います。でも大丈夫、先輩を見てください。さりげなく？進級して卒業しているでしょう。新潟大学歯学部は、検討に検討を重ねた教育カリキュラムを用意していますので心配はいりません。

諸君の臨床教育の場となる医歯学総合病院は、医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療、臨床教育、研究の実践を目指して平成15年に従来の医学部附属病院と歯学部附属病院を統合して誕生しました。学生時代は早期臨床実習が1年次よりおこなわれますので、早い段階から本院で学ぶ機

会があります。また、より臨床に即した教育として歯学科では一昨年度から臨床能力を客観的に評価するために開発された客観的臨床能力試験（OSCE）を開始しています。さらに新潟大学歯学部の教育の特徴としては、学生が教員の指導のもとに実際に患者の治療に参加することがあげられます。全国的に臨床実習が見学中心になっている大学が多いという状況をみると、とても恵まれた環境にあるといえます。

もちろん大学生活が知識や技術の習得に偏ってはいけません。歯学部は定員が少ないため、とても狭いコミュニティーになりがちです。部活動やサークル活動あるいは地域活動を通して多くの人と交流することが、きっと自分の人間性を磨くことにつながると思います。学生時代はなかなか地域の方と交流する機会が少ないかもしれませんが、新潟は“人”がいいですよ。新潟県人の“人の良さ”を実感できる私のお勧めスポットは白山の朝市です。白山の朝市は旭町キャンパスから程近い白山浦という場所で毎朝行われています。地元のおじちゃんやおばちゃんが新鮮な野菜や果物を世間話しながら売っています。良い医療人と聞いてどのような人を想像しますか？「高度な技術や知識の習得」は医療人に求められる当然の義務であり、それに加えて私たちに必要なのは「人間としての暖かさ」です。多くの人と交流して、そこから学ぶものは計り知れません。これからの6年あるいは4年間をどう過ごすかによって、諸君の将来は大きく変わることでしょう。未来の歯科医学、歯科医療、福祉を担うのは諸君です。諸君のやる気にこたえられるよう、病院は最大限の努力を惜しみませんので、迷うようなことがあればいつでも相談に来てください。共に夢の実現に向けてがんばりましょう。